

# 認知症理解深める

八戸学院光星高は27日、保育福祉科福祉コースの生徒を対象とした「認知症サポーター養成講座」を開いた。八戸市内の福祉施設の職員が講師となり、認知症患者と出会った場面を想定したロールプレイング（役割演技法）などを行い、患者や症状などへ理解を深めた。

同コースの1～3年生48人が参加した。講師はDVDやスライドを使って、生徒に認知症の症状の特徴などを説明。講師は「認知症の人に自覚がないというのとは間違い。本人が安心できる声掛けをすることで、症状が改善したり進行が緩やかになったりする」と強調した。

その後、講師が買い物

## 光星高生48人、サポーター養成講座受講

中の認知症の女性役、生徒が店員役になり、患者への正しい対応を実演し

### 患者への対応を体験



症サポーター

認知症患者役への対応を実演する店員役の生徒（右）

た。  
2年の田名部心海さん（16）は「認知症の課題などを知ることができて良かった。今後の勉強に役立てたい」と話した。（稲村安莉）